



2022年1月号
子育て世代包括支援センター
子育て支援室



新年あけましておめでとうございます。寒さが厳しい毎日が続いていますが、いかがお過ごしですか？今年も支援室職員一同、皆さんにお会いできることを楽しみにしていますので、是非遊びに来てくださいね。今月は「子どもの甘え」についてお伝えします。支援室でもお子さんの甘えをどこまで聞いてよいのか、悩まれているお母さんが多くいます。「甘え」と「甘やかし」を区別してお子さんとの良い関係を築いていけると良いですね。

甘えとは・・・

子どもが自立に向かうためのもので、自分のことをたくさん受け止めてもらえた経験は自信につながり、やがて自立に向かっていくことができます。大切な愛着関係の1つです。

甘やかしとは・・・

子どもの自立を阻むもので子どもに求められていないのに、大人が先回りしたり過干渉になったりすることを指します。

※愛着関係とは・・・特定の人との精神的な深いつながり。困った時にくっついていける関係。



支援室でよく見られる光景として自分で靴が履けるのに「ママ、履かせて！」と甘えるお子さん。



それに対して「自分で履けるでしょ！」とお子さんに頑張らせようとするママ。きっとママの気持ちは「ここで甘やかしたらこの先も甘えが強くなってしまおう」との思いからだと思います。しかし、実は甘えさせることが、子どもの自立につながるのです。甘えによる愛着関係を土台にして、子どもたちは外の世界を広げていきます。子どもが何かに挑戦したり失敗したりすることもあると思いますが、そうなった時そこに「ママという安全基地がある」という安心感から立ち戻ることができます。大人の元を離れたたり戻ってきたり、「依存」と「自立」を繰り返しながら成長していくのです。「甘えさせる」は大いにやって大丈夫です。

子どもの安全基地になってあげることが
幼少期の親の役目と考えましょう！

